

女川民報

2010年
1月号
日本共産党
女川町委員会
(53)3614
(54)2562
ご意見・ご要望
をお寄せ
ください

十二月議会報告

十二月議会は12月13日から17日までの4日間開催されました。高野博、阿部律子両町議の活動を紹介します。

日本共産党女川町委員会の見解と政策を紹介します。

迎春

藤沢町民病院の「ナイトスクール」に学ぼう

町長「良いところは取り入れていきたい」



阿部律子町議の一般質問
医療と福祉の町づくりを

岩手県藤沢町の藤沢町民病院は毎年黒字経営で、全国的にも優れた病院であることから研修をしてきました。藤沢町は人口が94000人程度で、高齢化率33・6%とほぼ本町と同じです。到来した超高齢化社会を地域社会全体で受け止め、「健康と福祉の里づくり」を最重要課題として取り組んでいます。病院と町民との語らいの場として「地域ナイトスクール」を開催し、また、保健・医療・福祉の連携と調整が図られており、黒字経営ということと、医療報酬と介護報酬を補充し

合うメリットがあるとしても、学ぶ点も多いのではないのでしょうか。さらに、切れ目のない連携と調整により待機者がいないということは特筆すべきことです。宮城県では特養ホーム2000床増設する計画ですが、ぜひ本町としても待機者の多い特養ホームの増設を前倒しすべきではありませんか。

町長答弁

藤沢町の方向性は参考になり、本町としても転換の時期とらえています。ナイトスクールのような病院と町民との語らいの場づくりは大切に必要性を感じています。特養ホームは第5次福祉計画で考えているが、状況によっては前倒しもあり得ます。

原子力安全・保安院を、経済産業省から分離独立させるべきと、二度目の意見書

女川町議会は17日、原子力安全・保安院を経済産業省から分離独立するよう国に求める意見書を全会一致で可決しました。

2003年9月に続き2度目の意見書提出です。今回福島県議会も同様の意見書を提出しています。国の安全審査そのものが問われています。



住民との対話を大切に
藤沢町民病院の佐藤元美院長



高野 博町議の一般質問

新型インフルエンザワクチン補助の拡大

高野博、阿部律子両町議は10月16日、町長に新型インフルエンザの予防接種へ助成を要望書を提出し、10月30日の議会で小学3年生まで予算措置されました。高野町議は一般質問でその後

国の指導で二回接種が一回でよくなり、この際対象の拡大を求めました。担当課長答弁

同じ考えで助成対象を中学生まで拡大し、通知を出しました。

民意を削る定数削減

日本共産党町議団は、議員の定数を二削減し十四にする条例に反対しました。

高野町議は「これ以上議員を減らせば、町民の声が届かなくなり、新人が立候補しにくくなる。町民にとって、かけがえのない議会になるよう改革しようとしている事を考慮すべき」と主張しました。

住民の声が大切にされる町政を今年も力をあわせ頑張ります



女川町立病院をバックに

国民の「政治を変えたい」「くらしを守りたい」という願いが、自公政権を退場させました。

しかし民主党政権は派遣法、後期高齢者医療制度、沖縄の米軍基地問題など「かんじん要」の問題で選挙公約とくいちがう、後退する態度を次々とあらわにしています。日本共産党はくらし、雇用、平和などの国民の願いにこたえ、事態を前向きに打開するため全力をあげます



2010年
参院選勝利
党躍進の歴史的時代に

ひろば



新年を迎えました。朝、妻と2人で白山神社にお参りし、初日の出に手を合わせました。何人かの知人とあいさつを交わし、すがすがしい気持ちです。今年も参議院選挙の年、昨年、国民がはじめて「一票」の力で、国の政権を交代させました。国民は「一票」の力で政治を変えられる「新しい時期」をつくり出しました。世界も大きく動き出しています。核兵器のない世界へ。地球温暖化の対策、再生可能エネルギーの抜本的開発と新しい産業の振興。そして平和の地域共同体の広がり、軍事同盟を20世紀の遺物にしてしまおう動き。資本主義そのものを問い直す動きも。もはや、だれもこうした時代の動きは止めることは出来ないでしょう。「百害あって一利なし」のブルサーマル計画。女川町民にとって、新たな放射能の危険が増えても何の利益にもなりません。ブルサーマルをやらなくても世界の原発は動いています。いま問われているのは原発の是非ではなく、危険なブルサーマルの導入を認めるか否かです。ブルサーマルからの撤退が世界の大勢です。誰も止めることは出来ません。「資源はあの太陽から」。初日の出に手を合わせながら本心にそっと思いました。



当初の五階建て浦宿町営住宅建て替え計画の図。これでは日陰に。高齢者は孤立化し大変だ。

五階建ての住宅は見直しを 町長「総二階建て検討中」と答弁



高野 博町議の一般質問

地域住民の意見をよく聞いて すすめてほしい

十二月一日、尾田峰で懇談会をしました。町営住宅の建て替え計画で、町当局は五階建ての住宅を計画していました。日照問題や高齢化が進む中で、住民の孤立化や災害時の避難対策などと考えると、不適切ではないかと話し合いました。再入居を希望される住民は六十一人程度ということでした。高野町議は「町が検討した複数の案で、総二階で八十戸という計画があるがそれに基づき、五階建ての建て替え計画を見直せないかと」提案しました。町長は「内部で、総二階建てで八十一戸の計画を検討中で、固まったら議会に示したい」と答弁しました。



阿部律子町議の一般質問

後期高齢者医療制度の今後は

阿部律子町議は「民主党がマニフェストで廃止を主張したにもかかわらず、新制度が出来るまで廃止の先送りを明言。マスコミも『変節民主苦しい弁明』と報じています。来年度予定される保険料値上げに対し、国の負担抑制策が実現してもごく一部であり、すみやかな廃止が求められます。本町の今後の保険料は、厚生労働省は県や町に負担の抑制を求めています。どう考えるのですか」と質問。

プルスール「壮大な実験」との指摘をどう受け止めるか

第二再処理工場などまったく不明。慎重な対応を

高野町議は「使用済みのMOX燃料の処理処分の検討はこれから。六ヶ所の再処理工場の深刻な事態やもんじゅの事故を見ても、プルスールを急ぐ必要は全くない。伴先生の「壮大な実験」との指摘をどう受け止めますか。再生可能エネルギーの資源量について産業技術総合研究所等の試算はいくらですか。NHKの番組「原発解体」で、中性子を浴びた水や窒素、金属が放射性物質に変わることを紹介。プルスールで誘導放射能が増加すれば、労働者被曝の増加が心配です。定量的な実証がされているのですか。基準地震動580ガルは過小評価ではありませんか。本当にそれ以上の地震は来ないと保障できますか。不安がありませんか」とたずねました。

災害に強い町づくりのために

阿部律子町議は「10月7日8日の台風により大きな被害を受けました。特に冠水による床上浸水、床下浸水は住民の生活にとって憂慮すべき問題です。行政として土のうを配布する等の努力はされていますが、もっと知恵と工夫

町長は「厚労省通知では来年度の保険料の負担は13.8%の増加になるようです。国の指導で県や町の繰り入れを行い、負担の抑制をすることであれば、統一的に広域で考えなければならぬ」と答弁しました。

で冠水対策にのぞんで欲しいものです。駅前では冠水対策として地下に水を溜め込むようにしています。黄金地区や浦宿駅前など、被害が大きい地区へなんらかの対策はないか」と伺いました。担当課長は「駅前では保健センター脇の駐車場の地下に100トンの貯留層を設置した。海岸に近い海抜ゼロメートル地帯では満潮時や高潮の場合逆流し、無理と考えます。小河川は単管パイプを上流に設置するなど、木の枝、葉っぱ等をおさえるため、下流に流れるのを防ぐ効果はありました。他にも設置していきま」と答弁しました。



二〇一〇年元旦女川湾初日の出

家族の働きを必要経費に認めてください。所得税法五六条の廃止を求める意見書。阿部律子町議が提出者になり、全議員が賛成者になり、意見書が全会一致可決されました。国会では、日本共産党の大門みきし参議院議員が中小業者の妻や家族の働き分を、必要経費として認めない所得税法五六条について「政府として廃止へ向けて前向きに検討すべきだ」と政府をただしました。

編集後記



十二月議会で強く感じたことがあります。議会と執行部の関係です。従来は、議会・議員には審議権と議決権があり、執行部の執行権を侵してはならないとされてきました。しかし実際は、町長が国と県と相談し、予算を獲得したものを議会や議員がひっくり返すことは出来るわけがない、敵をつくり損をすると多くの議員は考えて、予算案の否決など行われることはめったにありませんでした。それが出張市や双葉町の財政破綻を防げなかった議会や議員の姿ではなかったでしょうか。議会と議員が自ら下した決断に責任を持つ。この当たり前のことをやるためには、町民の願いや意見をよく聞き、町民の声の代弁者として、時には執行部以上の調査や決断が必要。そして議会として議案や条例の修正・提案を行える議論と力量が求められます。執行部がいったん決めた浦宿の町営住宅建て替え計画を、当局がこれまでの議会の議論を参考に柔軟に「再検討する」と回答しました。こうしたやりとりが、議会と執行部のあり方に新しい道を開くと確信します。その時、町民にとって議会や議員がなくてはならない、かけがえのない存在になるのではないのでしょうか。

女川民報

日本共産党女川町委員会の見解と政策を紹介しします。

2010年
4月号
日本共産党
女川町委員会
(53) 3614
(54) 2562
ご意見・ご要望をお寄せください



日本郵政で約10万人の非正規労働者を正社員へ。大門みきし参議院議員の質問。

三月議会報告

3月定例議会は3月1日から12日までの12日間開催されました。

保育料 第3子を無料に

阿部律子町議の一般質問から

阿部律子町議は「子育てするなら女川で」をスローガンに、「3人目の子どもの保育料は無料化に」と以前も提案してきました。町長は「今年度は3人入所した場合、第3子を無料にする」と答弁しました。阿部律子町議は「それでは対象者が限定される。兄弟が学校で3番目の子どもが保育所という場合も無料に」と迫りました。町長は「今年度は保育料金の階層見直しで10%軽減している。提案は次回考えたい」と答弁しました。同僚議員も同様の質問をして、町長も「来年度考えたい」と答えました。



日本共産党と共に政治を進めましょう

志位和夫委員長来る！

日本共産党大演説会
5月29日(土)14時開会
仙台サンラザール
ぜひご参加ください

参議院選挙 制度解説
1回目 選挙区は候補者名で
2回目 比例代表は政党名で

住民投票条例を提案しました

高野博町議は「住民の理解」というなら、住民投票をすべきと条例提案を行いました。

提案理由の中で、町民の圧倒的多数が住民投票を望んでいること、投票結果を尊重することは議会を軽視することにはならないこと、町民はプルサーマルについて真剣に考えていることを訴え、賛同を求めました。阿部律子町議はアンケートの結果を示し、「町長が施政方針で地域住民一人ひとり自ら考え主体的

ブルサーマル計画は、町民の意思を問うべき

高野博町議が指摘したブルサーマル計画の問題点

国内で実証試験をやっていない
1982年策定の原子力長期計画で「プルサーマルの実証試験を行う」と決定。しかし実施していません。
ドイツ、スイス、ベルギー、プルサーマルから撤退へ
日本原子力研究開発機構契約業務報告書に「2013年ドイツ、2012年スイス、2010年ベルギー終了予定」と。
世界中で想定外の大地震が起きている

に行動し、その行動と選択に責任を負う地域主権をうたっています。それこそ議会や町長の判断だけではない」と住民投票条例に賛成討論を行いました。木村公雄、鈴木隆子両議員が反対討論を行いました。

採決の結果2対12で否決されました。しかし、町民の同意なしにプルサーマルの実施は許せません。住民の安全を守るために今後とも全力を尽くします。

子ども医療費無料化など所得制限をなくしました

アンケートにも「子ども医療費無料化制度の所得制限をなくして欲しい」という意見が寄せられました。今年度から、子ども医療費や母子父子家庭の医療費などで所得制限が廃止されました。



毎週、浦宿駅付近で、二人で元気に朝のご挨拶中です。

水道料金改定 5トン未満の使用料は据え置きに

4月26日の臨時議会で水道料金の再改定が行われ、使用量が5トン未満の家庭については、基本料金を945円に戻す事が決まりました。

これには次のような議会での議論がありました。

まず、これまで上水道の料金と簡易水道の料金が異なるのはおかしいのではないか指摘があり、3月議会で町執行部は、上水道も簡易水道も一律1155円に統一するよう申しました。

しかし、わが町も高齢化がすすみ、一人暮らしや高齢者だけの世帯がふえ、約700世帯で5トン未満の使用量となっており、1155円では負担が重いとの指摘が出されました。議会の総意として議長が議論の結果を町長に伝え、今回の改定となりました。

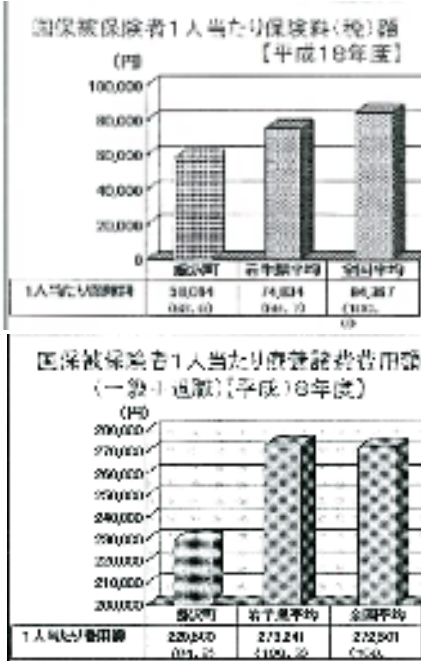
国保税の引き下げを

高野博町議の一般質問から

高野博町議は、再度国保税の引き下げを願って、質問しました。

本町の平成18年度一人当たりの国保税は7万2千円、当時「引き下げて欲しい」と千数百名の陳情署名を町長に届けました。それが19年度7万8千円、20年度8万6千円と増加してきました。

国の補助金の削減が原因と思いますが、一般会計からの繰り入れをして税の軽減を図るべきです。また、岩手県藤沢町の一人当たりの国保税は5万8千円、療養諸費は23万円（女川町は41万円）と大変低くなっています。



平成22年度一般会計予算に対する反対討論

高野博町議は、住民投票や住民の意向調査も行わないで、拙速にプルサーマル導入を決めた安住町政を厳しく批判し、反対の立場を表明しました。

プルサーマルは、実証試験も行わず、使用済みMOX燃料の処分が未定で、制御棒の効きが低下し、融点も下がる等の問題、過酷事故の時ブルトニウムなどで

被害が甚大に、世界ではプルサーマルからの撤退、想定外の大地震発生時の危険など、数々の問題点を指摘しました。

今年度若者定住住宅建設が予算化されず抜本的な人口流出対策が不十分、浦宿住宅建設は町内業者にと提言。国保税の軽減を強く主張し、町立病院の再生に町民上げて取り組む必要性を指摘しました

藤沢町に学び国保税の軽減をめざすべきと質問。申請減免制度の改善を求め、すべての高校生等にも保険証を交付すべきと提言しました。

町長は、保健指導を積極的にを行い、一般会計からの赤字補填を5千万円を限度に考え、申請は石巻市と同じにすると答弁。

浦宿住宅建設では町内業者に仕事を

浦宿住宅建設工事では本町の事業では総額10億円を超える公共事業です。

そこで高野博町議は、工夫をして町内業者に仕事を発注できないかと質問しました。

町長は、難しいが分離

発注などで町内業者が入れるよう工夫をしてみたいと答弁しました。

また、高野博町議は住宅リフォーム助成制度が各自自治体で取り上げられている。太陽光発電への助成と検討してほしいと提案。町長は、太陽光発電の助成には「制度を設けることは出来る」と答弁。

阿部律子町議の一般質問から 使用済みMOX燃料のゆくえは決まってい

阿部律子町議は、プルサーマル実施で最大の問題は使用済みMOX燃料のゆくえが決まっていないうこと。使用済みのウラン燃料を運び出すことを前提に、女川原発の運転が許可されてきたのに、

プルサーマルで使用したMOX燃料は運び出す先が決まっていないうのに、なぜ、許可されるのか全くわからないと質しました。町長は「国が検討されると思う」と述べるにとどまりました。

後期高齢者医療制度は廃止を

後期高齢者医療特別会計予算に対し、阿部律子町議は、保険料の値上げは認められないと反対討論を行いました。特に、「今年は2年ごとの保険料改定の年ですが、国庫補助金の交付もなく、3.82%の値上げ。

民主党は保険料の際限ない負担増や差別医療であることを認め廃止を明言したにもかかわらず、3年後に先送りしたことは国民への裏切りです」と、後期高齢者医療制度の廃止を訴えました。

チリ地震津波被害、激甚災指定を

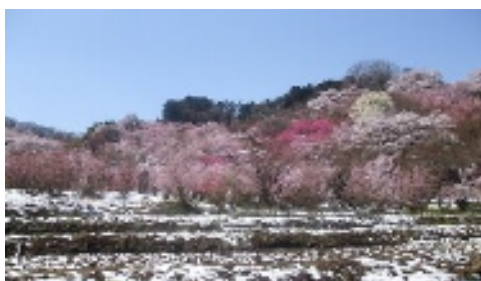


3月24日、高野博町議らは、高橋千鶴子衆議院議員と政府に陳情を行いました。

編集後記



▼やっと桜の花が咲きはじめました。いかがお過ごしですか▼3月議会で子ども医療費の所得制限が廃止され喜んでくださった方もおられると思います▼そのほかに心身障害者医療費も所得制限が撤廃され、さらに4月から「肝臓の機能障害」が追加されました▼医療費負担の重い肝臓障害の方々にとっても朗報です▼私たちはいま55ページに及びプルサーマルについての町民アンケート結果報告集を手づくりで作成しています▼出来次第、全戸にお届けします。ぜひお読み頂きたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。



雪の花見山・後援会で行ってきました